

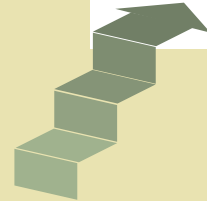
# 群馬交響楽団

## 高崎市民オーケストラ誕生秘話



映画「ここに泉あり」の主演者写真入りの会員券

# 「ここに泉あり」撮影騒動記



群馬交響楽団の草創期を描き、その存在を広く世に知らしめた映画「ここに泉あり」。出演者は岸恵子、岡田英次、津島恵子、小林桂樹、三井弘次、加東大介、東野英次郎他、群馬ゆかりの名優が連なる。戦後間もなくまだ娯楽の少ない時代だった昭和30年2月に封切られ、その年のキネマ旬報ベストテンの5位に選ばれた。昭和29年夏に高崎や群馬県内で映画のロケが行われ、撮影はまちを挙げて大いに盛り上がった。

### ●予定より4カ月遅れたロケ

「ここに泉あり」のロケ予定が最初に発表されたのが、昭和29年4月。この時点で、群響が山村の小中学校へトラックに乗って向かうシーンは、吹雪の越後湯沢で撮影済みだった。高崎市民は、ロケが始まるのを待ったが、シナリオが難産で、実際に撮影が始まったのは8月だった。「今度こそ本当に」という言葉が飛び交い、何度も延期が繰り返されていたようだ。

高崎市内では、市内ロケを控えて延期も手伝い、ファンの関心はいやおうなく高まったが、悪質なデマが飛ぶどころか、ロケ詐欺事件も起こった。

ある旅館に十数名の男たちがロケの下調べと称して泊まり込み、上客と言わんばかりに豪遊、四日も泊まり込んでそのままドロン。他にも「主演女優が休むところがないから是非お宅の店先で休ませてくれ」などと言って茶菓子を出させるといふ事件が起こり、関係者を悩ませた。

### ●「ここに泉あり」後援会を結成

群馬県では県内ロケが観光宣伝に役立つと、「ここに泉あり」後援会を結成、大がかりな援助に乗り出した。現在のフィルムコミッションのようなものだろう。

高崎では8月24日夜、第二中学講堂で開催。プロデューサーの岩崎昶、今井正監督らスタッフ、主演の岸恵子、岡田英次、小林桂樹らがあいさつし、群馬フィルハーモニー（当時の群響の呼称）の演奏などでファンを喜ばせた。発会式の入場券は前売り100円で、県下に5万枚を売りさばき、後援会費を生み出そうという計画だった。

### ●85日間の長期ロケ

ロケ隊の一行は、既に先発隊が高崎に乗り込み、市内の各所にセットの組み立てを進めていた。本部は駅前安田屋旅館、俳優宿舎は豊田屋旅館に決定、8月28日から85日間の長期にわたる撮影が始まった。エキストラは一面最高600人まで動員され、試写会の無料招待券が贈られた。

この前年に『君の名は』で真知子を演じて国民的ヒロインとなった岸恵子の人気は絶大で、ロケの先々で大変な騒ぎになったそうだ。

「ここに泉あり」上映会（群馬音楽センター）  
平成24年10月21日（日）  
1回目 10時、2回目 13時30分  
※入場無料 当日、会場にお越し下さい。